

日本国際看護学会第4回学術集会の開催にあたって

日本国際看護学会第4回学術集会会長
伊藤尚子（山陽学園大学）

菊花薫る季節となり晩秋の気配を感じるようになりました。会員の皆様方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

COVID-19の、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態を勘案いたしまして、日本国際看護学会第4回学術集会はWeb開催となりました。

COVID-19の影響により、皆様方の生活やお仕事にも多大な変化をもたらしたかと存じます。本学会におきましても第4回学術集会の開催自体を検討することもありましたが、国際看護の知見の共有をはかる学術集会を中断させまいという意見のもと、開催の決定がなされた次第です。当初は本学会の前身である国際看護研究会からみても初の2日間開催という予定でしたが、この事態に右往左往しつつ短縮しての開催となりました。奇しくも初のWeb開催という運びになったわけですが、今後のハイブリッド形態による開催の布石となれば幸いです。

さて、第4回学術集会は「看護が具現化する人間の安全保障～看護による難民支援～」といたしました。「人間の安全保障」は、人間一人ひとりに着目し、生存・生活・尊厳に対する広範かつ深刻な脅威から人々を守り、それぞれの持つ豊かな可能性を実現するために、保護と能力強化を通じて持続可能な個人の自立と社会づくりを促すという考え方で、「Freedom from want、Freedom from fear（欠乏からの自由、恐怖からの自由）」を目指します。第8代国連難民高等弁務官を務めた緒方貞子氏は、人間の安全保障委員会の議長であり、今でも世界から尊敬を集めているのは周知のとおりです。海外の難民支援活動の場や、難民を扱う国際学会などでは必ずと言ってよいほど「Madam Sadako」の名前が出ます。多くの場合、「マダム・サダコの意志に沿って」とか「マダム・サダコの哲学に則って」というように登場します。その際、日本人女性がほかにいないと、私の方に向かって発言者が一礼されることがよくあります。緒方貞子氏がどれほど信望され敬愛されているのかを知るとともに、恐縮する瞬間でもあります。

前述したとおり、「人間の安全保障」の理念と、安全安楽を提供しつつ、苦痛を緩和・除去し、健康の維持増進に関わり、日常生活支援をして対象のニーズを充足させる「看護」の理念とは一致していると思ってきました。学術集会では、この点について、皆様といかに「人間の安全保障」の理念を具現化して看護実践に結び付けるかを討論できる場にしたいと考えております。あわせて、日本における難民の状況や支援の実際についても情報を共有したり、議論を交わしたいと思います。

最後になりましたが、日本国際看護学会第4回学術集会の開催にあたり、多くの方々のご支援、ご協力を賜りました。ここに心より感謝申し上げます。

2020年11月22日